

29年度県外視察研修報告

下諏訪町立下諏訪南小学校 樋口 綾

研修のテーマ

音楽の楽しさを実感する授業のあり方について ~創作活動を通して~

- 1 視察期日 平成29年11月10日(金)
- 2 視察場所 栃木県宇都宮市立築瀬小学校
- 3 研修報告

(1) 研修の概要

児童が新しい発想を持ち、試行錯誤を重ねて自分の考えを深めるために、創作活動はとても大事なのだが、児童にとってはハードルが高い分野だと感じている。子どもが楽しいと感じながら取り組める授業のあり方について、改善の糸口を見つきたい。

(2) 研修から感じたこと

音楽あそびを効果的に使った導入の工夫

この授業学級では以前から、五音音階(ミ、ファ、ラ、シ、ド、ミ)の音を用いた旋律の模倣やリレーを取り入れていたという。教師が示す三音からなる短いフレーズを児童が反復したり、教師→児童、または児童→児童の旋律が「問いと答え」になるように表現したりして、即興的に旋律をつくることを積み重ねてきた。このような活動から始めて、つくことに慣れていくことが、子どもが感じる難しい感覚を和らげることができるように感じた。

よりよい表現を試行するグループ活動の工夫

3~4人のグループで活動していた。一人ひとりが即興的につくった旋律をお互いに聴き合いながら、音の上がり下がりやリズムなどを工夫して試してから旋律をつなげている様子が見られた。今までに学習してきた五音音階の旋律を手がかりにしながら旋律をつくり、つなげている様子が見られた。少人数のグループにすることで、安心して発表ができる様子も見られた。

友だちの表現を聞いてよさに気づくことへの支援の工夫

友だちの表現にどんな工夫がされていたのかが見て分かるように、発表ボードに示されていた。児童は記譜ではなく音型を表す矢印の記号で表し、グループでつなげる工夫として反復や変化などのしくみをカードで示していた。発表の場では、友だちの旋律の音を聴きながら、ボードで旋律の音型を見ることで、どのような工夫があったのかを共有することができていた。

五線譜や音符ではなく、記号を使って表すのも児童にとって活動に取り組みやすい工夫だと感じた。

(3) 研修を通して私のこれからの課題

いきなりやろうとすると大変なので、日頃の常時活動から、音楽づくりを取り入れていきたい。また、創作=五線譜、音符、正しい記譜、ということにとらわれず、もっと気軽に音づくりができるような場を設定することが大事だと感じた。

